

# 国語 選抜試験

新中一

一 次の——線の読みを書きなさい。

- (1) 問題点を簡潔に話す。  
至急、母に電話する。
- (2) 生存者の安否を問う。  
鏡に映る姿を見る。
- (3) 雑草を除く。

二 次の——線を漢字で書きなさい。

- (1) 川のげきりゆうを下る。  
さいなんにあう。
- (2) せんぎよう農家を多くする。  
すててあるゴミをひろう。
- (3) その案についてけんとうを加える。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の熟語と組み立てが同じものを、ア～エからそれぞれ選びなさい。

- (1) 寒暖  
ア 温暖      イ 存在      ウ 尊敬      エ 裏表
- (2) 納税  
ア 就職      イ 残雪      ウ 高層      エ 幼児

問二 次の□にあてはまる言葉を、ア～エからそれぞれ選び、ことわざを完成させなさい。

- (1) □にあてはまる言葉を、ア～エからそれぞれ選び、ことわざを完成させなさい。  
すずめ □ まで踊りを忘れず
- (2) 一寸の虫にも □ 分の魂
- ア 二      イ 三      ウ 五  
エ 十      オ 百      カ 千

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

李すも 山室静やまむろしずか

- 1 季節のはげしい放電が
- 2 李の木のこずえにある。
- 3 その下を雨の夕ぐれ歩いてみると、
- 4 明るく心がわなわなする。
- 5 どうとう待ちわびた春が来たのか。
- 6 わたしの着物はもはやしとどに濡ぬれている。
- 7 濡れながらかつかど身体からだがほてってくる。
- 8 季節の鬱々うつうつとはげしい熱病に感染し、
- 9 わたしは南風に髪かみをなぶらせている。
- 10 李は雨の中にふくらむ。
- 11 李は雨の中に身もだえる。

(注) しとど—ひどく。はなはだしく。

鬱々—心が晴れ晴れしない様子。草木がしげっている様子。  
身もだえる—苦しんだり悲しんだりして身をくねらせる。

問一 この詩に用いられている表現技法を、ア～エから選びなさい。

- ア 擬人法ぎじんぽう      イ 反復法  
ウ 倒置法たうちほう      エ 体言止め

問二 1行目「季節のはげしい放電」とありますが、それは何ですか。ひらがな四字で書きなさい。

問三 9行目「南風に髪をなぶらせている」とありますが、どのような様子を表していますか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 南風が髪をひとかたまりにまとめている様子。  
イ 南風にまじる雨に髪をいくらか濡らされている様子。  
ウ 南風に髪が吹きとばされないようにしている様子。  
エ 南風が吹くままに髪を乱されている様子。

問四 この詩にこめられている作者の気持ちとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア タぐれの雨をうっとうしいと思う気持ち。  
イ 待ちわびた春が来たことをうれしいと思う気持ち。  
ウ 南風がふいてくるのをこちよいと思う気持ち。  
エ 李が少しづつ大きくなってほしいと思う気持ち。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

寒いさなかであるが、私は他の季節よりも、むしろ真冬に、北風や西風に背を押され、ほおを押さえながら、散歩でときを過ごすのが好きだ。つとめ先の新聞社のビルを出て、皇居を半周することもある。竹橋を渡って千鳥ヶ淵へ出、時間が来たらそこでクルマを拾って仕事先へ赴く。もっと余裕のあるときは、東京駅へ出て横須賀線に乗り、横浜へ行く。

電車の窓から枯れ残った野菊を見る。電車の中の人々の表情をながめる。通り過ぎて行く町なみを観察する。

連れない。①散歩は一人に限る。懐中にはほんのコーヒー代と足代、持ってもセーター一枚買えるぐらいの紙幣があればいい。ただ物思いは一切やめる。本も読まない。そのかわり、目の前に現れるものに神経を集中させる。

ついこの間のこと、いつものように私は、元町を通り、途中から坂道を上がって教会の方へ足を進めた。真冬といっても陽の光はおだやかで、外国人墓地のまがきには、椿の花が紅をのぞかせていた。墓地のさきは海である。墓地に眠っている外国人の男や女は、望郷の思いを今も海に向かってうたっているようで、②ここを通るときはいつもしみりする。

教会の前にさしかかると、急に鐘が鳴り出した。のぞくと今しもお堂の扉が開かれて、中から結婚の誓いをすませたばかりの花婿さんと花嫁さんが、しずしずとおりて来るではないか。私は目を疑った。しかし、それは夢ではなく花婿花嫁さんの後には黒衣の牧師さんがこやかに控えており、家族や友人の笑顔が続いていた。③鐘の音は空に吸いこまれ、空には白い雲が流れていた。彫りの深い花嫁さんの顔に私はしばし見とれた。

折り返して、山手十番館で、熱いコーヒーを飲んだ。あの二人がきょうの婚礼をむかえるまでにどんなストーリーがあり、きょうからまたそのストーリーはどのように書きつがれて行くだろうか、と想像した。

散歩が楽しいのは、こんなふうに偶然に、④なんらかのドラマに出会わずことである。それをきっかけに、読者は自分一人という活字のない本を書き始めるのも自由だ。コーヒーを飲み終わって外へ出る。夕暮れのやって来る時間が少しずつおそくなっていることに気がつく。風の冷たさもやわらいでいることがわかる。冬の散歩の楽しさは、春の予感をいち早く感じ取ることもある。

(増田れい子「独りの珈琲」より)

(注) 竹橋・千鳥ヶ淵——皇居付近の地名。

懐中——さいふやポケットの中。

元町——横浜市にある地名。

まがき——竹などで編んで作った垣。

今しも——ちょうど今。

山手十番館——コーヒー店の名。

問一——線①「散歩は一人に限る」とありますが、筆者はどのような態度で散歩をしていますか。文中の言葉を用いて書きなさい。

問二——線②「ここを通るときはいつもしみりする」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア なくなった知人たちのことを思い出して悲しくなるから。

イ 墓地に眠る人々の、故郷をなつかしむ思いを感じるから。

ウ いつかは自分も死ぬことを考えて、むなしくなるから。

エ まだ見知らぬ外国の土地をたずねたいと強く願うから。

問三——線③「鐘の音は空に吸いこまれ、空には白い雲が流れていた」とありますが、この表現からどのようなことが感じとれますか。適当なものを、ア～オから二つ選びなさい。

ア むなしさ イ さびしさ ウ はれやかさ

エ さわやかさ オ 不思議さ

問四——線④「なんらかのドラマ」とありますが、ここで筆者はどのようなドラマに出会ったのですか。その光景が具体的にえがかれている段落をさがし、初めの五字を書きなさい。

問五 筆者が、冬の中にも春の気配をかすかに感じていることがわかる一続きの二文をさがし、初めと終わりの五字を書きなさい。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

- ① 生まれたばかりの赤ん坊は、視力も運動能力も未発達ですが、聴覚だけはほぼ完全に発達しています。母親の胎内にいるときからすでに、胎児は母親の聞いている音を聞いているといわれるほどです。たとえば、母親がテレビを見れば、その音声に、胎児が反応しているといわれます。
- ② こうしたことを考えれば、<sup>①</sup>耳からの教育は、生まれたときから行わなくてはならないことがわかります。できるだけ早く、インプリーディングを始めなくてはいけません。ところが、ほかの能力が未発達のために、つい、聴覚もそうかと思いつく無頓着になり、すっかりとした<sup>②</sup>ことばの教育をしないまま、すごしてしまいがちです。
- ③ こどもにとって、生まれてはじめてのことばは、母親のことばです。もちろん、文字を教える意味がありません。ただ、ことばを聞かせるだけでよいのです。生まれたらなるべく早く、その日のうちに、母親の声を聞かせるのが望ましいといわれています。
- ④ 母親は、こどもにとってはじめてのことばの先生です。その先生が、もしもことばをきちんと話さなければ、どうなるでしょうか。人間のことばの文化が、世代を超えて伝わらないことになってしまいます。これは、たいへんなことです。
- ⑤ そして、<sup>③</sup>母親はことばを教えるのに適しています。不思議なことに、古今東西を問わず、女性は男性にくらべてよくしゃべるといわれています。近ごろの説によれば、エストロゲンという女性ホルモンの影響で、女性は男性よりも言語能力がすぐれているのだそうです。つまり、自然の摂理によって、こどもを産むことと、赤ん坊にことばを伝えていくことが、結びついているのです。
- ⑥ 耳からことばを覚えていく赤ん坊にとって、先生である母親のことばはとても大切です。こどもにことばを刷り込むために、おかあさんは、とにかくたくさんしゃべらなければなりません。こどもは、それを何度も何度も、くりかえし聞いているうちに、やがて、すこしずつことばを覚えていくのです。
- ⑦ この、はじめのことばのことを、私は、「母乳語」と呼んでいます。赤ん坊が母乳だけで、体がどんどん成長していくのと同じように、こどもの内面は、母乳語だけで育っていきます。母乳が体の糧なら、母乳語はこころの糧というわけです。母親のことばだけで、こどものこころは、どんどん発達していきます。
- ⑧ アメリカでは、生まれたばかりのこどもに話す母親のことばを、「マザーリース」といいます。マザーリースとなることばは、次のような特徴をそなえているといわれます。
- I. 普通より、すこし高い調子の声で話す II. 抑揚を大きくする III. くりかえし言う IV. おだやかに、できれば、ほほえみを浮かべて話す
- ⑨ このなかでとくに注目したいのは、「」ということ事です。というのも、母乳語はインプリーディングのことばだからです。どんなに優秀な子でも、はじめて聞いたことばを、一度や二度では覚えられません。何度も何度もくりかえし聞いているうちに、自然にことばがわかってくるのです。これが、はじめのことばを習得する基本です。
- ⑩ このため、母乳語では、という行為が、どうしても必要なのです。
- (注) インプリーディング——親がやってみせ、子がまねするというのをくりかえすことで覚えていく、動物によく見られる学習形態。
- 摂理——この世のいろいろなことを支配している法則。 抑揚——声やことばの調子を上げたり下げたりすること。

問一 ——線①「耳からの教育は、生まれたときから行わなくてはならないことがわかります」とありますが、筆者がこのように述べるのは、どのような事実があるからですか。文中の言葉を用いて、三十五字以内で書きなさい。

問二 ——線②「ことばの教育」とありますが、「ことばの教育」をするとは、どのようにすることですか。次の文のにあてはまる言葉を、段落から八字で書きぬきなさい。

・こどもにこと。

問三 ——線③「母親はことばを教えるのに適しています」とありますが、その理由として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア こどもがはじめて耳にすることばは、母親のことばだから。  
 イ 母親はいつもこどものそばにしていることができるから。  
 ウ こどもの内面は、母親のことばだけで発達していくから。  
 エ 女性の言語能力は男性よりもすぐれているから。

問四 ——線④「この、はじめのことばのことを、私は、『母乳語』と呼んでいます」とありますが、筆者は「母乳語」をどのようなものと考えていますか。次の文のにあてはまる言葉を、文中から七字で書きぬきなさい。

・母乳が赤ん坊の体を成長させるように、母乳語はを発達させていく。

問五 文中に二つあるには同じ言葉があてはまります。最も適当なものを、段落のI～IVから選び、記号で書きなさい。

問六 この文章は大きく三つ（一つ目が段落、二つ目が段落、三つ目が段落）に分けることができますが、二つ目の内容として最も適当なものを、ア～ウから選びなさい。

- ア こどもがことばを覚えていくうえで母親のことばの大切さ。  
 イ はじめのことばを習得するうえでの基本。  
 ウ 生まれたばかりの赤ん坊に母親の声を聞かせることの重要性。